



Application

創傷治癒アッセイでの細胞運動能評価

製品名

カルチャーインサート
Culture-Insert (ib80209)

メーカー名

イビディ
Ibidi 社

下記フィードバックは、東京理科大学大学院 薬学研究科 小島研究室 小島周二教授、月本光俊助教、高井英里奈さんの御厚意により掲載させていただきます。

創傷治癒 (wound healing) アッセイとして、Ibidi社Culture-Insert (ib80209) を用い、TGF- β 1処理したヒト肺がん細胞株A549の「運動能」の変化を評価しました。

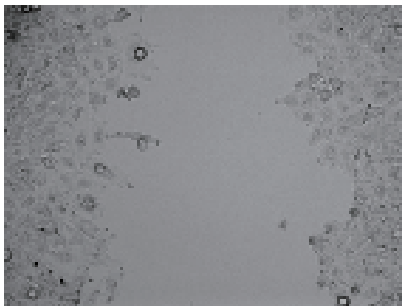
使用条件

細胞名：ヒト肺がん細胞株A549
顕微鏡・撮影装置：KEYENCE BIOREVO BZ-9000
細胞培養容器：IWAKI 35mm glass based dish および Ibidi Culture-Insert (ib80209)
培地：Wako DMEM培地 (10% FBS, penicillin (100U/mL), streptomycin (100 μ g/mL)添加)
試薬：Wako TGF- β 1 (human, recombinant)

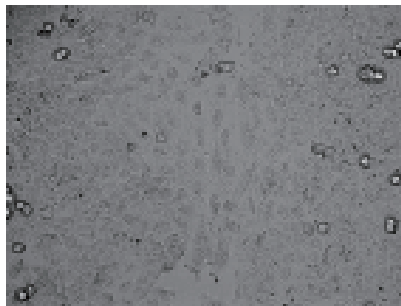
アッセイプロトコール

- 2 \times 10⁵ cells/mLの細胞懸濁液をCulture-Insertの各ウェルに70 μ L/wellで播種
- 48時間インキュベートした後、Culture-Insertを外し、TGF- β 1 (5ng/mL) 処置
- 24時間後に細胞の変化を観察

結果



コントロール(TGF- β 1処置なし)



TGF- β 1処置

■ コントロール(TGF- β 1処置なし)と比較し、TGF- β 1処置した細胞で運動能の亢進が認められた。



お客様のコメント

スクラッチとは違い、細胞を傷つけることがないので、損傷細胞から放出される因子の影響なく、細胞の運動能を評価できる。

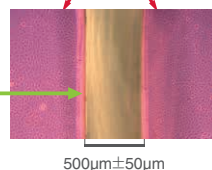


Ibidi社 Culture-Insertについて

- インサート底面が培養容器に接着します。
- 創傷治癒 (wound healing) 研究に最適です。
- 初代培養神経細胞など、少ない細胞数でも高密度に播種することができます。

細胞面がきれいにそろいます!

Step1 各ウェルに細胞を播種します。



Step3 細胞間相互作用を観察します。



Step2 細胞培養後、インサートを取り除きます。